

岩屋緑地のきのこ図鑑

NO. 26 サクラタケ



クヌギタケ科クヌギタケ属、和名：桜茸。春～秋にかけて、山や林の地上に単生あるいは群生する。傘の直径は約2～5cm程度で、柄は細く、長さは約5～8cm程度と、きのこの中では比較的小柄で、まるで桜のような儚さを感じます。カサは2～5cm位で、表面の色は淡紅色、淡赤紫色、淡紫褐色など変化に富む。名前の通り、桜の花のようなピンク系の色をしていることが多い。湿気を帯びると長い条線が見えるようになる。カサの形は幼い時は釣鐘型で成長するにつれて平らに開いていく。指で潰すと大根おろしやカブラのような匂いがする。少量の有毒成分ムスカリンを含むため、食べることは避けるべき。【写真：サクラタケ(三河の植物観察きのこ図鑑より)】

とよはしきこり隊

本郷和男



フィンランド、スウェーデンに続き森林率世界第3位(68.5%、2508万ヘクタールの森林2010 FAO)の日本。全国各地に森林の育成、整備等を担う森林組合がありますが、豊橋では2005年度末をもって解散してしまいました。

そこで豊橋市農政課(当時)などが2006年度から3年間「森林ボランティア養成講座」を開催し、その講座卒業生等が2007年1月「とよはしきこり隊」を誕生させました。以降、豊橋市農政課と連携し、同市の森林整備助成事業で間伐を行う他、宇連ダム水源地の間伐支援、森林整備啓発、又、隊員の森林管理スキルアップのための勉強会(森林調査、整備方針決定、間伐技術等)を自主開催しています。更に毎年市主催の「森林間伐作業講座(チェーンソーの取り扱い等)」の講師を務めています。

本来きこり隊は人の目に触れない山の中での作業ですが、近年は市民に触れる機会も多くなりました。一つは秋にカリオンビルで開催されるオレンジフェスタの参加で「まき割り、丸太切り」体験です。公園緑地課との関連では2019年に岩屋緑地の桜広場の造成作業(A2地区)のため日本古来の「ぶり縄技法」による伐倒作業を披露しました。これは安全基準が厳し

くなり装備に補充が必要ですが、ツリークライムの技法を取得して向山梅林周辺木の伐採作業も行っています。

一時期減少した隊員ですが「薪ストーブ」の影響か現在隊員17名。山のスギやヒノキも、公園の樹木も「とよはしの森林」として大切に守っていきます。【写真：高所作業をする「とよはしきこり隊」の隊員】

ドングリの森を守る会

会長 森北浩司

岩屋緑地に面した耕作放棄地をコナラ等のドングリの木を中心とした自然と触れ合える里山に戻すためこれまで一緒に整備してきたメンバー7人で今年、発足した団体になります。

生物多様性の森づくりに欠かせないドングリの木を育て、伐って、活用する循環型管理を目的



とし、自然と触れあうことのできる環境を守ると共に地域社会に貢献できる活動を行うことを会の目的としています。昨年整備してきた耕作放棄地を山林に用途変更でき購入したことや、隣接したグリーンスポーツセンター閉館に伴いこれまでに山道の草刈り等の作業をしてきた緑地西側が新たな公園になるための工事も始まり緑地に来る人達が増加することが見込まれ継続可能な活動をするため団体設立を決めました。現在、少人数のため決まった活動日はなく空いた時間で必要に応じて集まり活動しています。活動内容としては山道整備や倒木の撤去、危険木の伐採やシイタケの菌打ちをこれまでにしてきました。岩屋緑地に親しむ会と連携して岩屋緑地全体の里山保全活動を継続して行っていきます。【写真左：会で育てているクヌギのポット植え、写真右：元グリーンスポーツセンター横入園路沿いの手入れされたスイセン】



編集後記

昨秋のコナラ林の間伐や今春のシイタケの菌打ちとクリ・コナラの植樹に際して「とよはしきこり隊」と「ドングリの森を守る会」の皆さんに多くの指導や協力を頂いた。耳にしているのもその会について正しい知識を持つていないので、この機会に会に関係している本郷、森北の両氏に紹介文をお願いしました。有難うございました▼やっと桜が咲いた。今年は早いと思っていたら直前になって寒い日が続き予想外に遅くなった。自然は計算通りにはならないものか▼新体制で会報発行が年に2回となって負担が半分になると思ったが、記事を探す、構成を考える、原稿を書く、紙面の体裁を考える、これに追われ時間が瞬く間に過ぎ、負担は何も変わらないようだった。(Y・M)